



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

CITATION:

あとがき. 静脩 1964, 1(1): 8-8

ISSUE DATE:

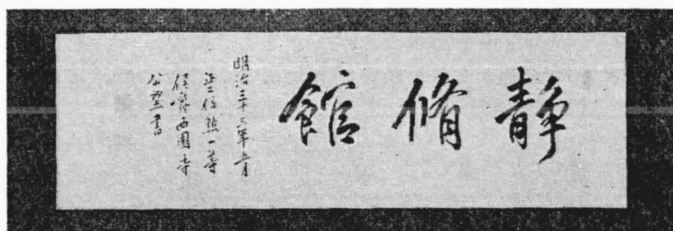
1964-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36218>

RIGHT:

マイ ク ロ フ ィ ル ム	ネガフィルム	1 コマにつき ただし撮影資料持参の場合	10円 8 円
	リーダー・トレーラー	1 件につき ただし郵送しない場合は希望者のみにつける	50円
	ポジフィルム	最初の 1 m 以後 1 mにつき 1 m未満の場合は 1 mとして計算する	100円 60円
	特殊撮影料	複写上特別に手間を要するもの(たとえば和漢の古書) はネガフィルム撮影料金に 1 コマ 2 円を加算する	
引 伸	キ ャ ビ ネ B 5	12円 A 5 30円 A 4	20円 40円
テキスト	1 枚 (ただし 5 部以上に限る。学外は取扱わず)		4 円



あ と が き

京都大学付属図書館静修第 1 号をおとどけします。

図書館報と称するものはかつて昭和 15 年に刊行されたことがあります。「京都大学付属図書館六十年史」によれば、「昭和 15 年 7 月京都帝国大学付属図書館報第 1 号を刊行し、本館新着図書の情報を中心とし、閲覧統計・報告等を載せ、学内各部署に配布した。この館報は謄写刷で、7 月 15 日第 1 号を発行し、学内各方面からその発展を期待されていたが、支那事変による物資欠乏等の事情もあって、同年 10 月わずかに第 5 号をもって中止された。」(同書 234 頁)とあります。

今回の館報は、かつて短命に終わった館報のたんなる復活ではありません。堀江館長の「創刊のことば」にもありますように、図書館と利用者との相互のコミュニケーションをよくすることに、もっとも大きなねらいがあります。この刊行目的がどこまで実現されるかは、ひとえにわれわれ編集委員の責任ではありますが、無力でありますため、ひろく各方面のご支援を切にお願いいたします。

ところで館報の名称として「静修」という言葉をえらびました。若い館員のなかには、もっと生きのいい名前をという意見もありましたが、本館には「静修館」という館名がありますので、結局それをそのまま採用することにいたしました。

明治 32 年末に本館が設置されたとき、当時の文相の書記官であった中川小十郎氏が、文相西園寺公望公に館名を委嘱したところ、「静修館」と揮毫して贈られたもので、その語の意味は、文字通

り静かに修めることであります。出典は小学巻 5 外篇嘉言第 5 にあり、諸葛孔明の論言で「諸葛武侯戒子書曰、君子之行、静以修身、俭以養德、非澹泊無以明志、非寧靜無以致遠」という文章に基づいています。

上に掲げた写真が西園寺公の筆になる静修館の扁額で、今も本館 2 階の大閲覧室に掲げられています。この館報の「静修」という文字は、この扁額からとりました。

なお館報の巻頭を飾っている写真版は、「雲」と題する斎藤素戔氏のレリーフで、本館玄関に掲げられています。全く同じものが本部の建物の正面玄関にもありますが、本館のものが原型です。

このように「静修」の巻頭は、ゆかりの深いものばかりで飾ることになりましたが、本文の方も、吉川先生の文章を掲載できましたことを喜んでおります。お忙しいなかをわざわざご執筆下さいました先生にあつくお礼申しあげます。

館報の編集には今後つぎの者があたることになりました。部局図書室からも数名の方に委員として参加していただきましたが、快く委員を出して下さいました部局の関係の方々のご協力に感謝いたします。

岩猿敏生(委員長)、島田広二(本館)
広庭基介(本館)、内藤昭子(本館)
大沢紀子(本館)、高野正夫(本館)
古原雅夫(農学部)、金井孝(経済学部)
岩佐節子(薬学部)、堀田繁雄(教養部)